

岡山県感染症週報 2013 年 第 9 週 (2 月 25 日～3 月 3 日)

◎ 岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です。

◎ 岡山県の『腸管出血性大腸菌感染症警報・注意報』は解除になりました。(3 月 5 日)

◆2013 年 第 9 週 (2/25～3/3) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 7 週	2 類感染症	結核	1 名 (40 代 男)
	5 類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 名 (70 代 女)
第 8 週	2 類感染症	結核	2 名 (30 代 男 1 名、50 代 女 1 名)
	5 類感染症	後天性免疫不全症候群	1 名 (60 代 男)
第 9 週	2 類感染症	結核	1 名 (70 代 女)
	5 類感染症	風しん	1 名 (40 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

- インフルエンザは、県全体で 1,206 名 (定点あたり 16.79 → 14.36 人) の報告があり、4 週連続で減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です。
- 感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 9.26 → 9.24 人)。

【第 10 週 速報】

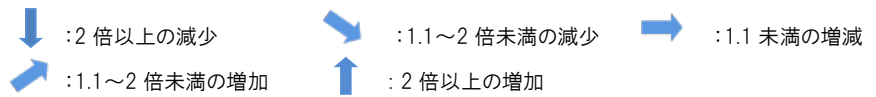
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 41 施設でありました。(3 月 4 日～3 月 7 日まで)
- 感染性胃腸炎による学級閉鎖が、岡山市の小学校 1 校でありました。(3 月 4 日)

- インフルエンザ**は、県全体で 1,206 名 (定点あたり 14.36 人) の報告があり、前週 (16.79 人) より減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』発令中であり、ひきつづき注意喚起を図っています。地域別では倉敷市、真庭地域、備中地域で発生レベル 3、岡山市、美作地域でレベル 2 が継続しています。依然として流行シーズンにありますので、手洗い・うがいなど感染予防に努めてください。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。全国の第 8 週 (2/18～2/24) の集計によると、定点あたり 13.90 人であり、前週 (16.31 人) よりも減少しました。第 5 週以降減少がつついており、40 都道府県で前週の報告数より減少しました。
- 感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同様でした (定点あたり 9.26 → 9.24 人)。県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
- 腸管出血性大腸菌感染症**は、1 月に 2 名の発生がありましたが、2 月以降の患者発生はありませんでした。岡山県は、平成 24 年 6 月 28 日に発令した「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を、8 月 7 日に「警報」に切り替え、注意喚起を図ってききましたが、1 月以降発生数が減少し、今後、発生の少ない時期を迎えることから、「腸管出血性大腸菌感染症警報・注意報」を 3 月 5 日に解除しました。警報・注意報は解除になりましたが、ひきつづき、食品の十分な加熱調理、調理前や食事前の手洗いなど、感染予防を心がけてください。
- 風しん**は 1 名の発生があり、岡山県では 2013 年第 1～9 週までに 6 名の発生がありました。詳しい発生状況等は、『今週の注目感染症』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】 前週からの推移:



発生状況: 空白:発生なし ★:僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

今週の注目感染症

風しん

風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の5類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届出ることになっています。

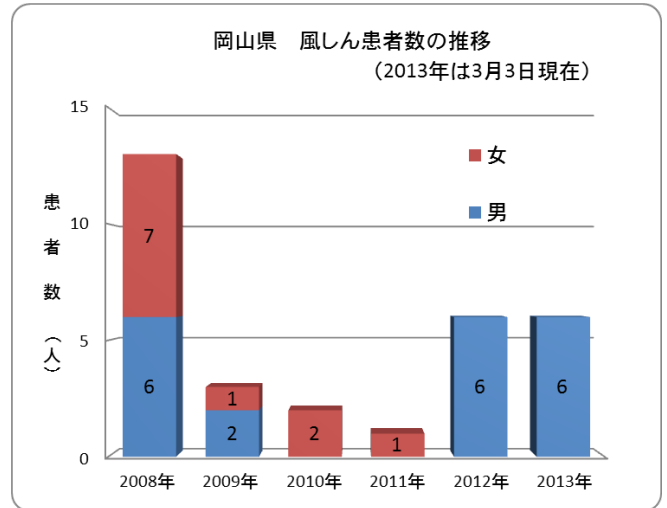
(国立感染症研究所 風しんQ&A)

【岡山県の風しん発生状況】

岡山県では、調査の始まった2008年以降、患者は減少傾向にありましたが、昨年は6名、今年は第9週までに、すでに6名が報告されています。

今年報告があった患者は全て男性であり、小学生1名、10代1名、20代1名、30代2名、40代1名です。患者の風しん予防接種歴は、予防接種歴無しが4名、接種不明が2名でした。

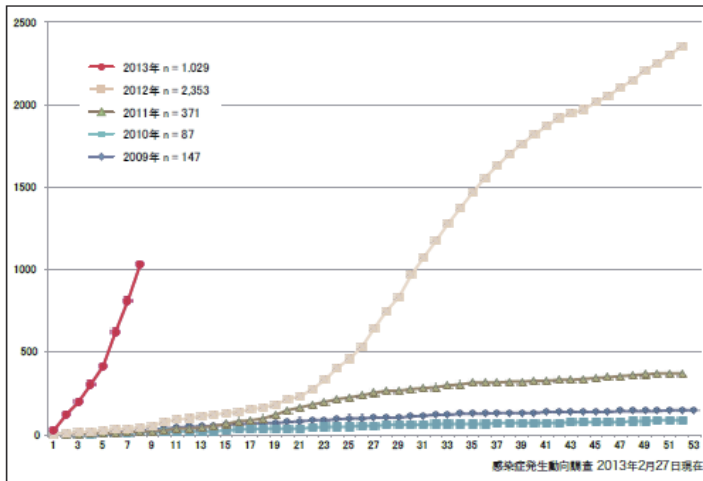
今年風しんは、首都圏を中心に大きな流行になっています。風しんは春先から初夏にかけて多くみられ、岡山県でも今後の患者増加が懸念されるところです。



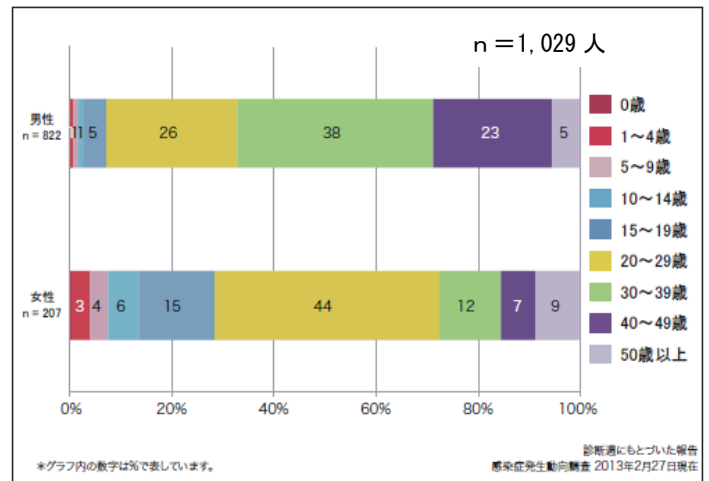
【全国の風しん発生状況】

昨年、風しんは全国で2,353名の報告があり、過去5年間では最も多い報告数となりました。近畿地方や首都圏で報告が多く、患者の7割以上は男性で、うち20代~40代が8割を占めました。今年も、同様の傾向であり、特に首都圏での増加が顕著となっています。今年患者数は、第1~8週までに1,029名。昨年同時期の20倍以上になっています。また、第8週(2/18~2/24)における1週間の報告数は219名にのぼり、患者は増加がつついています。

全国風しん累積報告数の推移 2009~2013年(第1~8週)

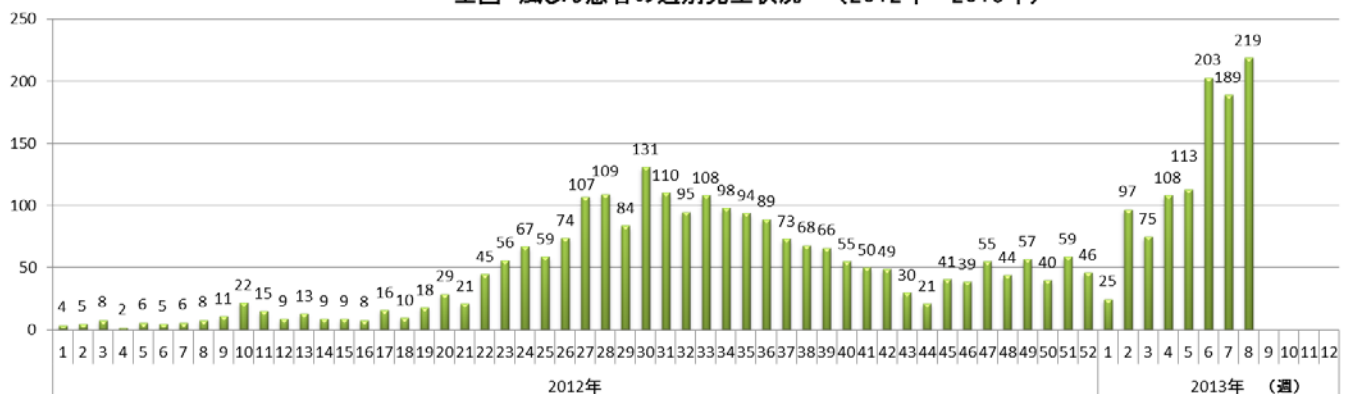


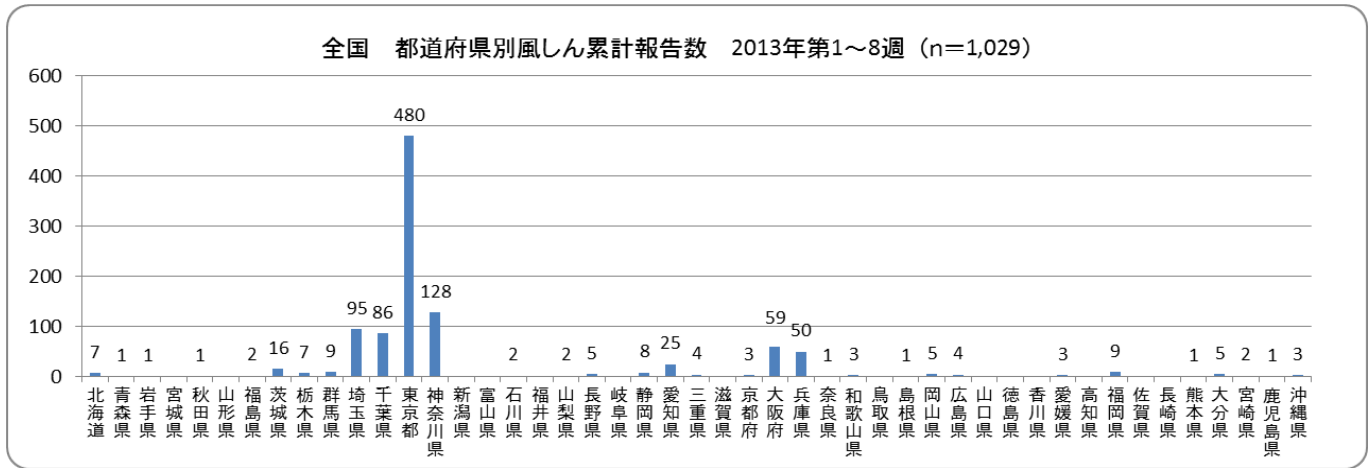
全国年齢群別風しん累積報告割合(男女別)2013年(第1~8週)



国立感染症研究所ホームページより

全国 風しん患者の週別発生状況 (2012年~2013年)





【先天性風しん症候群について】

風しんの抗体を持たない又は低い抗体価の妊娠中の女性が風しんにかかると、赤ちゃんに難聴や心疾患、白内障や緑内障などの障がい（先天性風しん症候群）が起こる可能性があります。

昨年の流行の影響で、平成 24 年 10 月から平成 25 年 1 月末までに、全国で 6 人の先天性風しん症候群の患者が報告されました。妊娠中の女性は予防接種が受けられないため、妊婦の周りにいる方(妊婦の夫、子ども、その他の同居家族等)は、予防接種をうけるなど感染予防に努めてください。

厚生労働省では「[先天性風しん症候群の発生予防等を含む風しん対策の一層の徹底について（情報提供及び依頼）](#)」を通知し、風しん対策に対する一層の周知を図っています。

＜風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう。＞

【風しんの定期予防接種対象者】

1 歳児、小学校入学前 1 年間の幼児、中学校 1 年生、高校 3 年生相当の方は、多くの市区町村において、無料で受けられます。

ただし、中学校 1 年生、高校 3 年生相当の方は、平成 25 年 3 月末までとなっています。

また、妊婦を守る観点から、特に、

- (1) 妊婦の夫、子ども及びその他の同居家族
- (2) 10 代後半から 40 代の女性(特に、妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い方)
- (3) 産褥早期の女性

のうち、抗体価が十分であると確認できた方以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

[○厚生労働省 「風しんについて」](#)

風しんとは

風しんとは、風しんウイルスによる急性熱性発しん性疾患で、春先から初夏にかけて多くみられます。

【症状】

感染後、14～21 日（平均 16～18 日）の潜伏期間の後、発熱・発疹・リンパ節腫脹を 3 主徴として発症します。発熱は 38～39℃で 3 日程度つづきます。発疹は多くの場合、紅く、小さく、皮膚面よりやや隆起した発疹が現れ、3 日程度で消退します。リンパ節は発疹の出現する数日前から腫れはじめ、3～6 週間程度持続します。基本的には、予後良好な感染症ですが、まれに脳炎・血小板減少性紫斑病を合併することがあります。

【感染経路】

多くは、くしゃみ等の唾液のしぶきによる飛沫感染です。発疹のでる 2-3 日前から発疹が出たあとの 5 日くらいまでがうつしやすいと考えられています。感染力は、麻疹（はしか）や水痘（水ぼうそう）ほどは強くありません。一度かかると、大部分の人は生涯風しんにかかることはありません。集団生活にはいる 1～9 歳ころ（1～4 歳児と小学校の低学年）に発生が多くみられます。

【治療・予防】

特異的な治療法はなく、対症療法が中心となります。予防には、ワクチン接種が効果的です。

インフルエンザ情報 2013 年 第 9 週 (2 月 25 日 ~ 3 月 3 日)

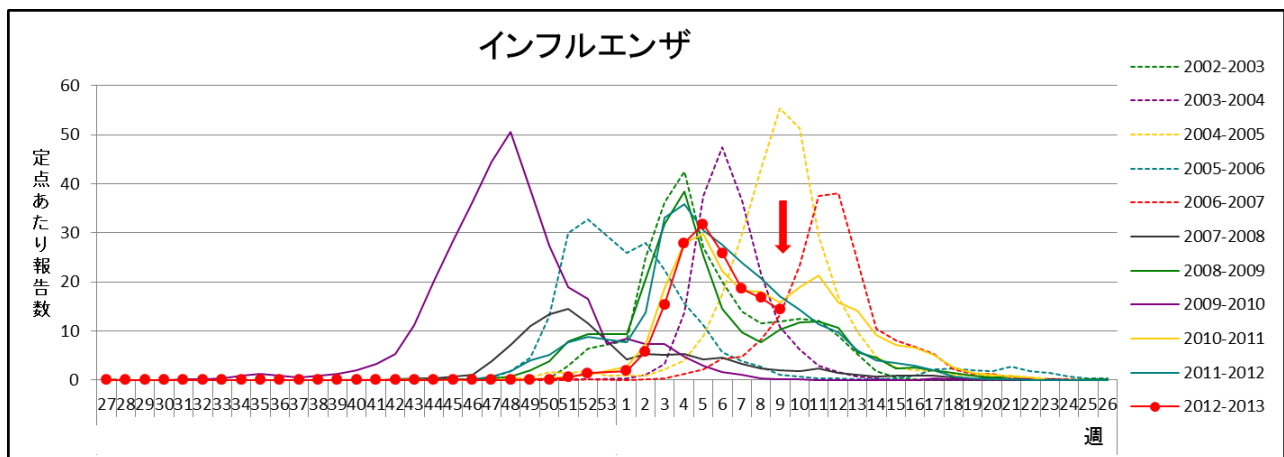
岡山県は「インフルエンザ警報」発令中です。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 1,206 名 (定点あたり 16.79 → 14.36 人) の報告があり、4 週つづけて減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』を発令し、ひきつづき注意を呼びかけています。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 58 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者 4 名の報告がありました。

【第 10 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 41 施設でありました。(3 月 4 日~3 月 7 日まで)
- ▽岡山市 12 ▽倉敷市 8 ▽備前地域 4 ▽備中地域 8 ▽備北地域 3 ▽真庭地域 4 ▽美作地域 2



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 1,206 名 (定点あたり 16.79 → 14.36 人) の報告があり (84 定点医療機関報告)、前週より減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』発令中であり、ひきつづき注意喚起を図っています。

備前地域、備北地域ではレベル 2 からレベル 1 になったものの、倉敷市 (28.69 → 23.50 人)、真庭地域 (10.67 → 16.67 人)、備中地域 (18.75 → 16.17 人) では大きな流行が継続していると思われる発生レベル 3^{*}が、岡山市、美作地域では流行が継続していると思われるレベル 2 がつづいています。

第 9 週の学校等の臨時休業は 58 施設から報告があり、前週より増加しました。ひきつづき保育園児・幼稚園児・小学生・中学生を中心とした集団の中での感染に注意してください。

第 5 週 (定点あたり 31.79 人) をピークに減少傾向にあります。依然として流行期にあります。感染予防を心がけ、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。また一度インフルエンザにかかっても、型の異なるインフルエンザウイルスに再びかかることがありますので注意が必要です。

※発生レベル 3 の開始基準を一度超えると、終息基準値 (10.00 人) より下がらないと、レベル 3 は解除されません。

◆ インフルエンザは依然として流行期にあります。ひきつづき感染予防に努めて下さい。

【インフルエンザにかかったら】

- 家に帰ったら、手洗い・うがいをしましょう。
- 人混みに入る時は、マスクを着用しましょう。
- 十分な睡眠、バランスの良い食事などに気を付けて、抵抗力をつけましょう。

【かかったかな?という時は】

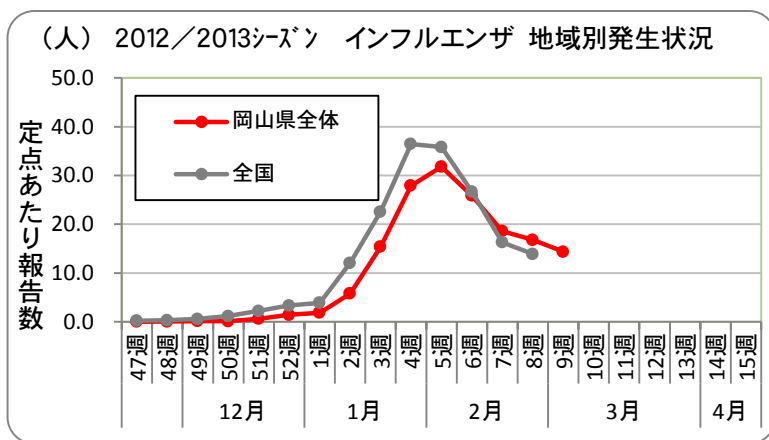
- 早めに医療機関を受診し、確実に治療しましょう。
- できるだけ屋間を受診し、必ずマスクを着用して受診しましょう。
- 周りの人にうつさないように「咳エチケット」を心がけましょう。

1. 地域別発生状況

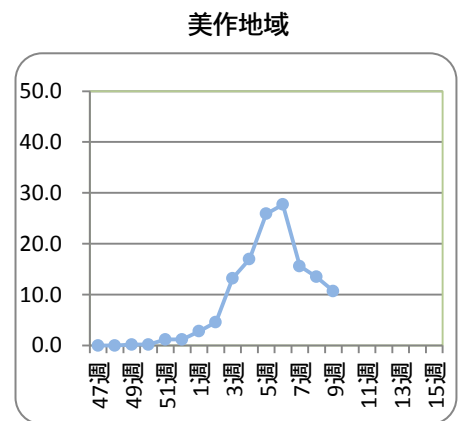
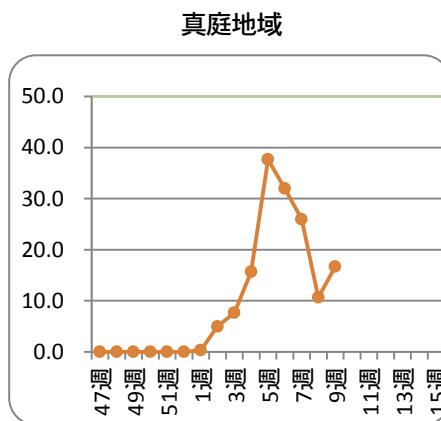
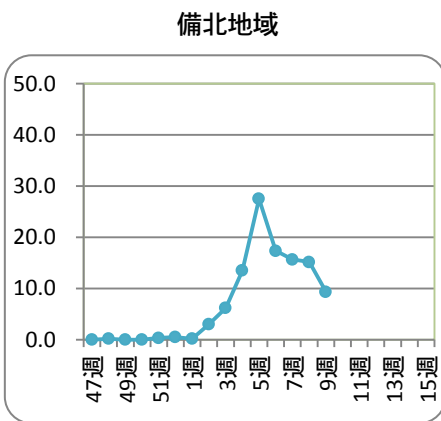
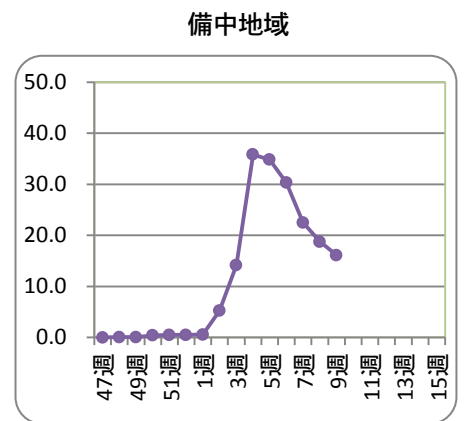
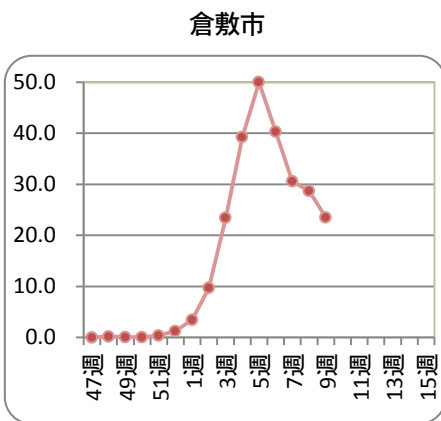
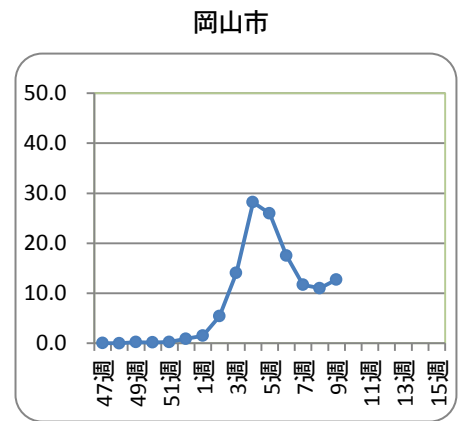
第9週(2/25~3/3) 前週からの推移(単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1,206	↓	備中	患者数	194	↓
	定点あたり	14.36			定点あたり	16.17	
岡山市	患者数	280	↓	備北	患者数	56	↓
	定点あたり	12.73			定点あたり	9.33	
倉敷市	患者数	376	↓	真庭	患者数	50	↓
	定点あたり	23.50			定点あたり	16.67	
備前	患者数	143	↓	美作	患者数	107	↓
	定点あたり	9.53			定点あたり	10.70	

【記号の説明】 前週からの推移: 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
 1.1~2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑

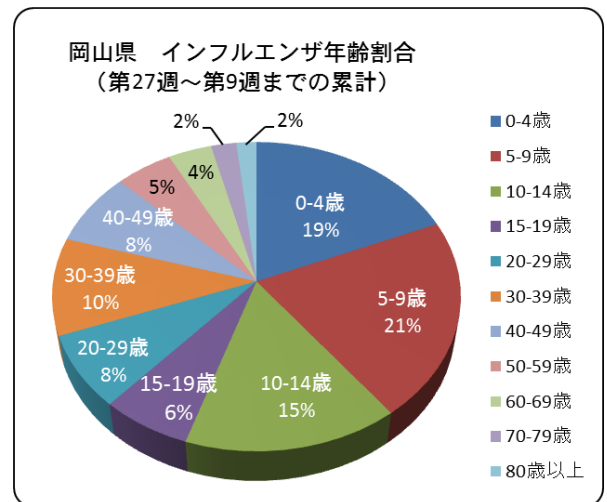
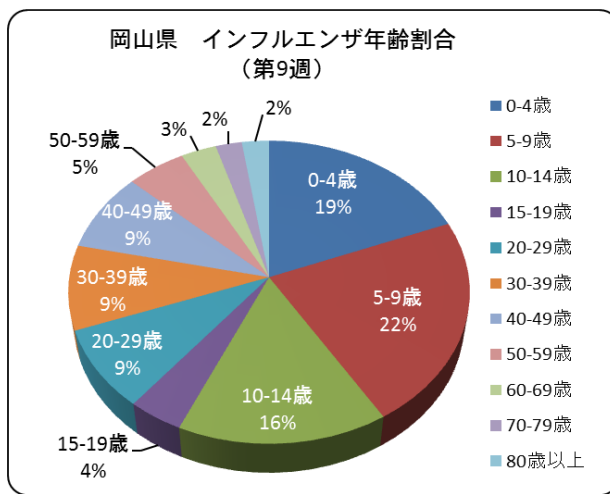
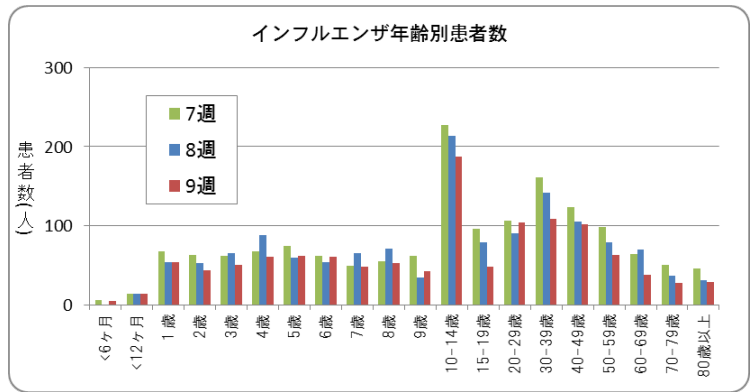


全国集計第8週(2/18~2/24)の定点あたり患者数は13.90人となり、前週(16.31人)よりも減少しました。第5週以降減少が続いており、40都道府県で前週の報告数より減少しました。

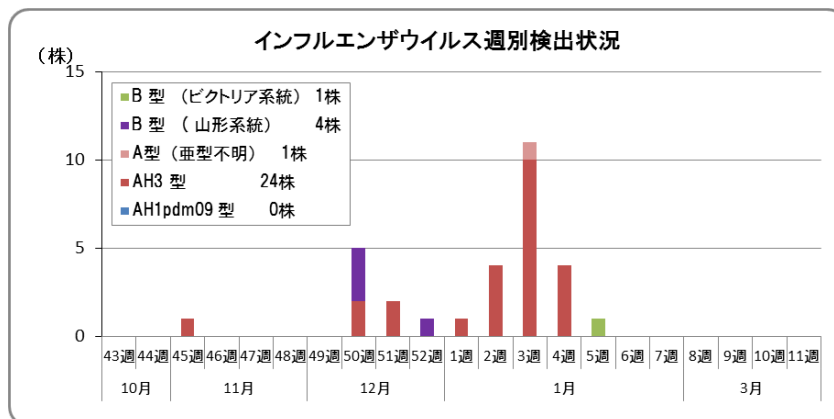


2. 年齢別発生状況 第9週 (2/25~3/3)

第9週の患者の年齢割合は5-9歳が22%、0-4歳が19%、10-14歳が16%の順でした。15歳未満の幼児・幼稚園児・小学生・中学生に該当する年齢層が患者の57%を占めています。第8週、9週には、学校等の臨時休業施設数も増加していますので、ひきつづき集団生活の中での感染に注意してください。



3. インフルエンザウイルス検出状況 第9週 (2/25~3/3)



第9週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、ありませんでした。これまでに検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が24株、A型（亜型不明）が1株、B型（山形系統）が4株、B型（ビクトリア系統）が1株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く89%、B型が9%、AH1pdm09型が2%の順になっており、昨シーズン同様AH3型が主流になっています。

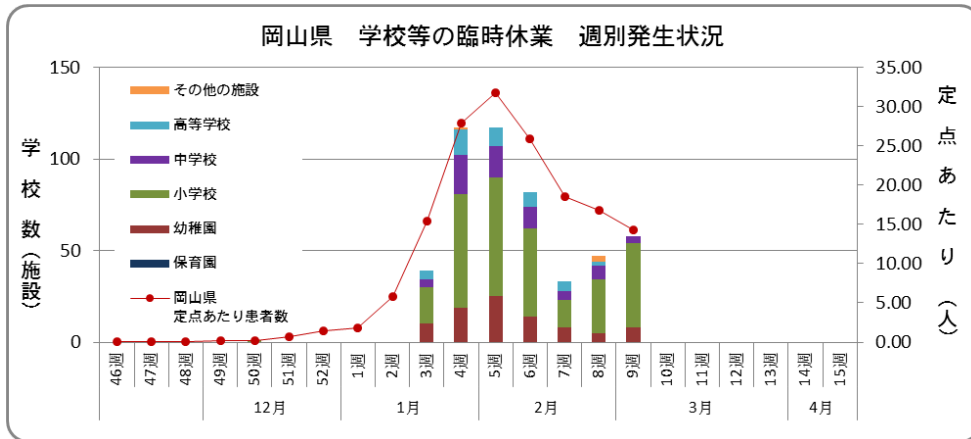
[\(インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症情報センター\)](#)

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第9週 (2/25~3/3)

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 58 施設でありました。

◆第9週 臨時休業施設数

▽岡山市 23 ▽倉敷市 11 ▽新見市 6 ▽玉野市 3 ▽井原市 3 ▽瀬戸内市 2 ▽和気町 2 ▽笠岡市 2
▽津山市 2 ▽備前市 1 ▽赤磐市 1 ▽吉備中央町 1 ▽美作市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳 第9週

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	828	6862	592	5072	58	495	2	19	22	158	34	318	H 24. 11. 6
岡山市	436	2566	304	1858	23	164	0	2	5	26	18	136	H24. 11. 6
倉敷市	162	1603	119	1151	11	95	0	1	1	14	10	80	H25. 1. 15
備前地域	81	793	58	602	10	72	1	4	5	34	4	34	H25. 1. 15
備中地域	53	943	45	770	5	81	1	5	3	36	1	40	H24. 12. 12
備北地域	70	287	49	220	6	29	0	3	6	21	0	5	H25. 1. 21
真庭地域	0	99	0	68	0	8	0	1	0	5	0	2	H25. 1. 21
美作地域	26	571	17	403	3	46	0	3	2	22	1	21	H25. 1. 15

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳

第9週：58 施設

累計：495 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	8	89	46	286	4	71	0	45	0	4

◆ インフルエンザによる出席停止期間が改正されました。

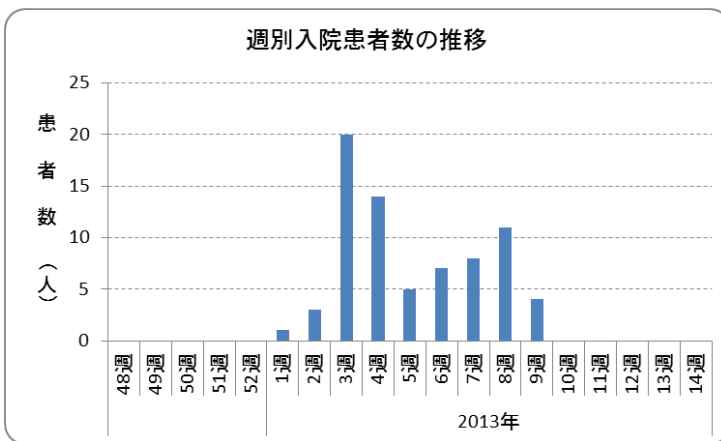
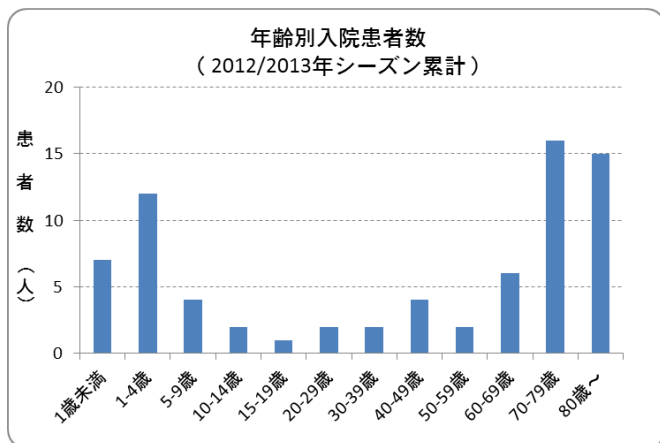
平成 24 年 4 月 1 日より、学校保健安全法施行規則が一部改正され、インフルエンザの出席停止期間が「解熱した後 2 日を経過するまで」から「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日(幼児にあっては、3 日)を経過するまで」に改正されました。水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

※ [学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令の施行について\(通知\)](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数 第9週 (2/25~3/3) (県内基幹定点 5 医療機関による報告)

インフルエンザによる入院患者は4名(幼児1名、60代2名、70代1名)の報告がありました。10歳未満の幼児、70歳以上の高齢者で入院患者が増加しています。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第9週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	1									2	1		4
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査(予定含)													
頭部MRI検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず	1									2	1		4

*重複あり

【平成24年9月3日以降に入院した患者の累計数】

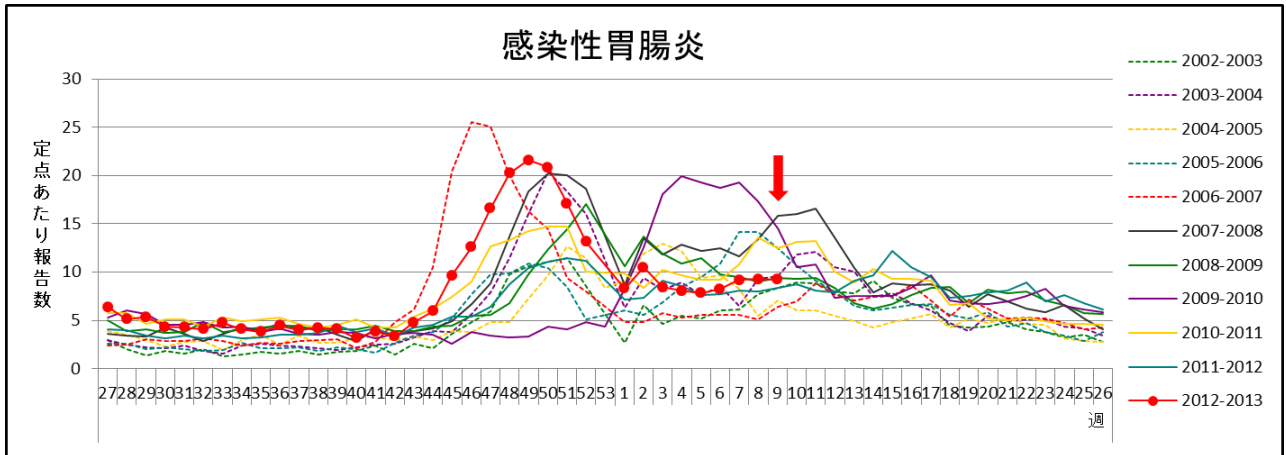
年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	7	12	4	2	1	2	2	4	2	6	16	15	73
ICU入室										1			1
人工呼吸器の利用							1			1			2
頭部CT検査(予定含)		3	2	1	1	1	1				2		11
頭部MRI検査(予定含)		3	1		1		1						6
脳波検査(予定含)		1					1						2
いずれにも該当せず	7	8	1	1		1	1	4	2	5	14	15	59

*重複あり

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 9 週 (2 月 25 日 ~ 3 月 3 日)

○岡山県内の患者報告数は 499 名 (定点あたり 9.24 人) であり、前週とほぼ同数でした。(54 定点医療機関報告)
【第 10 週 速報】

○感染性胃腸炎による学級閉鎖が、岡山市の小学校 1 校でありました。(3 月 4 日)



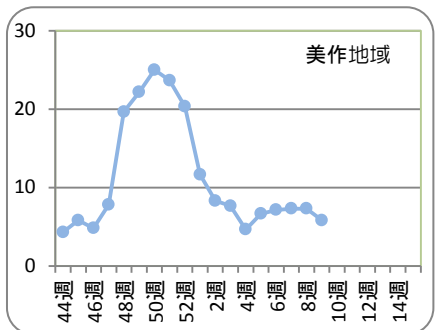
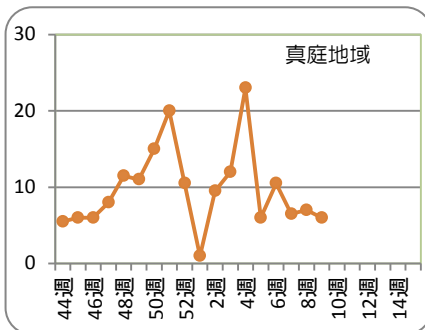
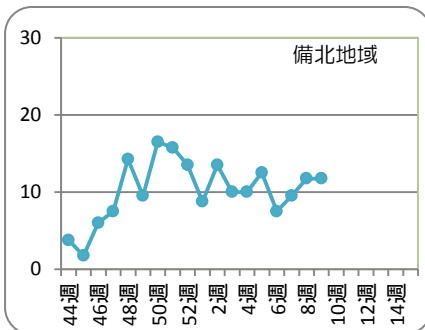
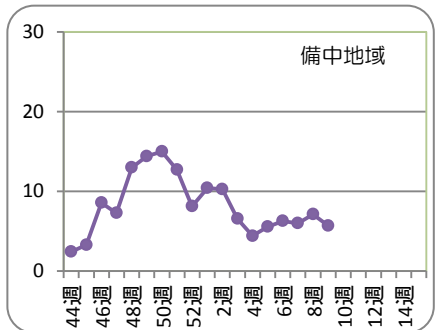
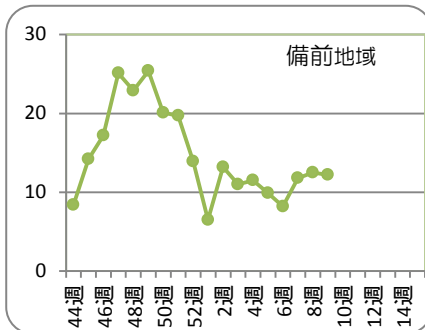
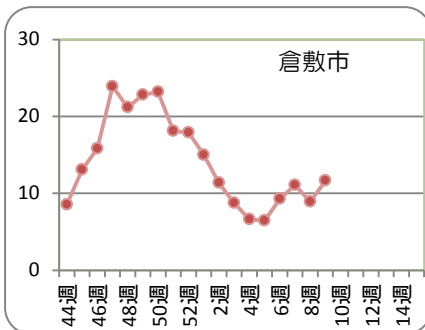
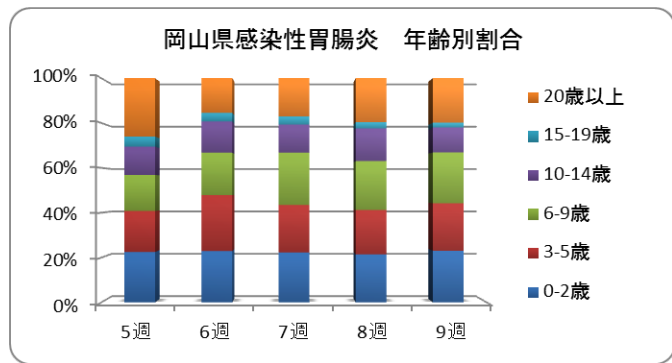
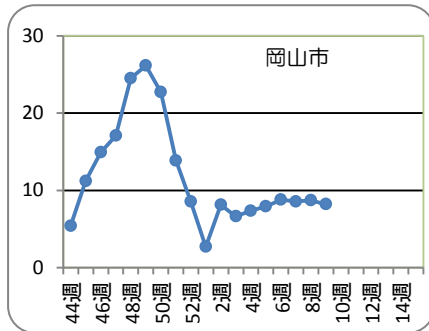
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 9.26 → 9.24 人)。地域別では、備前地域 (12.20 人)、備北地域 (11.75 人)、倉敷地域 (11.64 人) で患者が多くなっています。年齢別では、5 歳以下の幼児が全体の 45% を占めています。

第 10 週には感染性胃腸炎による学級閉鎖が小学校 1 校で報告されています。依然として流行はつづいていきますので、手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理などの感染予防と拡大防止に努めてください。小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢により脱水症を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

また、これから春にかけて、0~2 歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎も増加してきます。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスに比べ重症度が高いといわれていますので注意が必要です。

◆地域別・年齢別発生状況



保健所別報告患者数 2013年 9週 (2013/02/25～2013/03/03)

2013年3月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1206	14.36	280	12.73	376	23.50	143	9.53	194	16.17	56	9.33	50	16.67	107	10.70
RSウイルス感染症	7	0.13	5	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	8	0.15	3	0.21	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	1.02	22	1.57	13	1.18	4	0.40	3	0.43	-	-	-	-	13	2.17
感染性胃腸炎	499	9.24	115	8.21	128	11.64	122	12.20	40	5.71	47	11.75	12	6.00	35	5.83
水痘	49	0.91	11	0.79	17	1.55	6	0.60	6	0.86	1	0.25	1	0.50	7	1.17
手足口病	5	0.09	4	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	0.31	5	0.36	6	0.55	-	-	2	0.29	-	-	1	0.50	3	0.50
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	12	0.22	2	0.14	1	0.09	7	0.70	-	-	-	-	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 9週 (2013/02/25～2013/03/03)

2013年3月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1206	14.36	280	12.73	376	23.50	143	9.53	194	16.17	56	9.33	50	16.67	107	10.70
咽頭結膜熱	8	0.15	3	0.21	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	1.02	22	1.57	13	1.18	4	0.40	3	0.43	-	-	-	-	13	2.17
感染性胃腸炎	499	9.24	115	8.21	128	11.64	122	12.20	40	5.71	47	11.75	12	6.00	35	5.83
水痘	49	0.91	11	0.79	17	1.55	6	0.60	6	0.86	1	0.25	1	0.50	7	1.17
手足口病	5	0.09	4	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	12	0.22	2	0.14	1	0.09	7	0.70	-	-	-	-	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルは黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第9週 2013/02/25～2013/03/03)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1206	5	14	54	44	51	61	62	61	49	53	43	187	49	104	109	102	63	38	28	29

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	7	3	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	-	2	2	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	-	-	2	1	7	6	9	9	8	4	1	6	-	2
感染性胃腸炎	499	4	16	65	35	40	35	32	35	31	22	25	56	10	93
水痘	49	-	6	9	6	11	7	3	2	-	1	2	2	-	-
手足口病	5	-	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	1	9	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	12	-	-	-	1	-	1	1	1	4	1	1	1	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

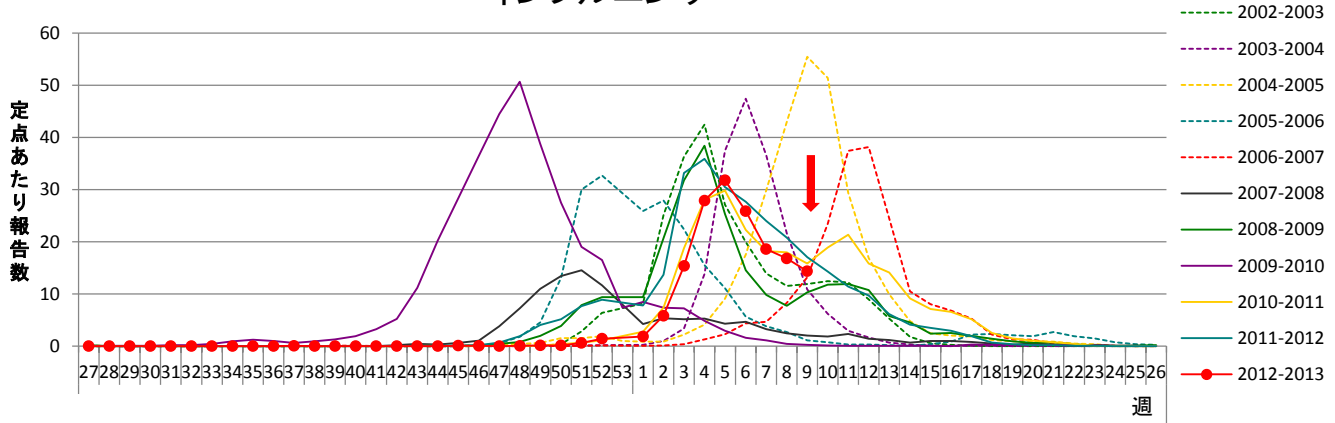
全数把握 感染症患者発生状況

2013年 9週

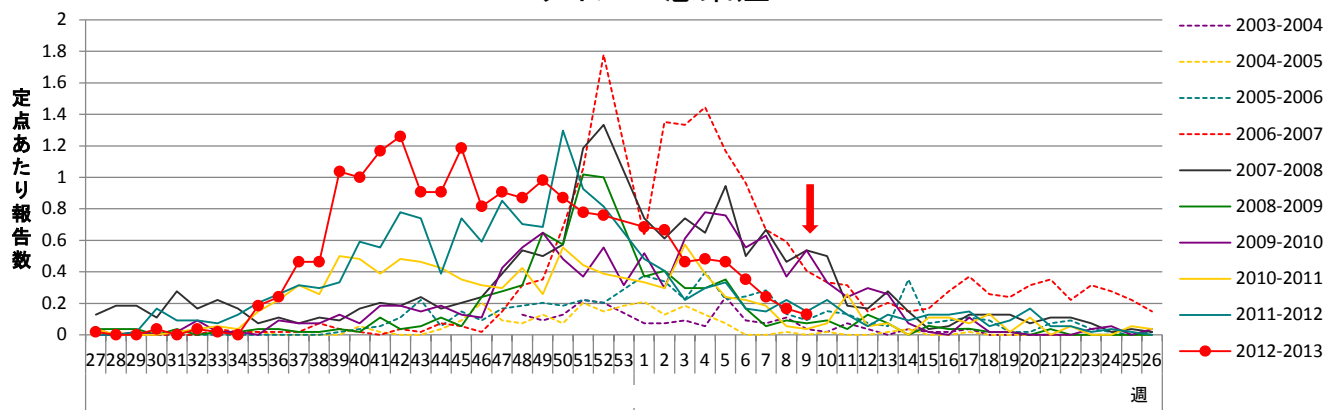
分類	疾病名	2013			疾病名	2013			疾病名	2013		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	38	477	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	2	169
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	3	2
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	5	29	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	1	11	ウイルス性肝炎*3	-	-	7	急性脳炎*4	-	-
クリプトスポリジウム症		-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
後天性免疫不全症候群		-	2	15	ジアルジア症	-	-	3	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
先天性風しん症候群		-	-	-	梅毒	-	2	7	破傷風	-	-	1
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	風しん	1	6	6
麻しん		-	-	6		-	-	-		-	-	-

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、来週から表記され、集計対象になります。

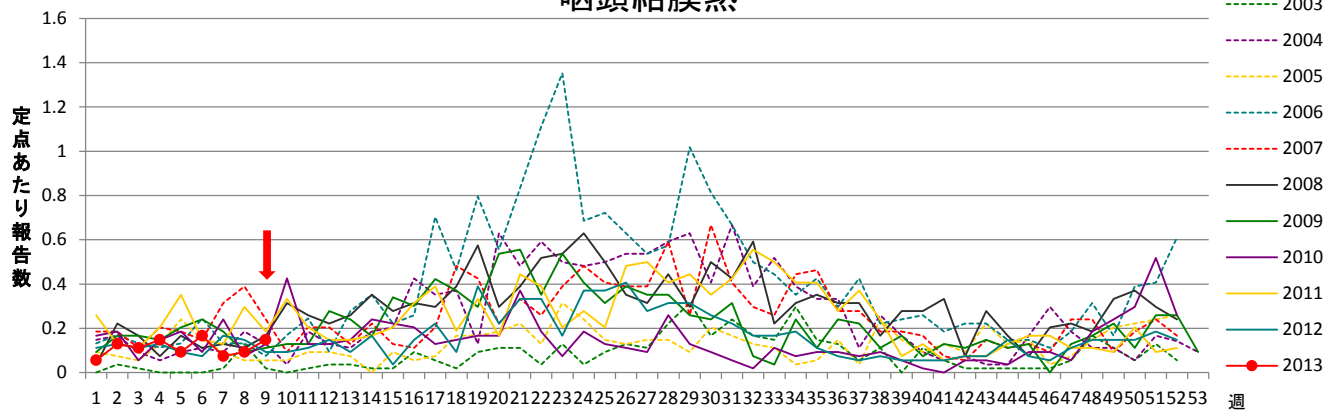
インフルエンザ



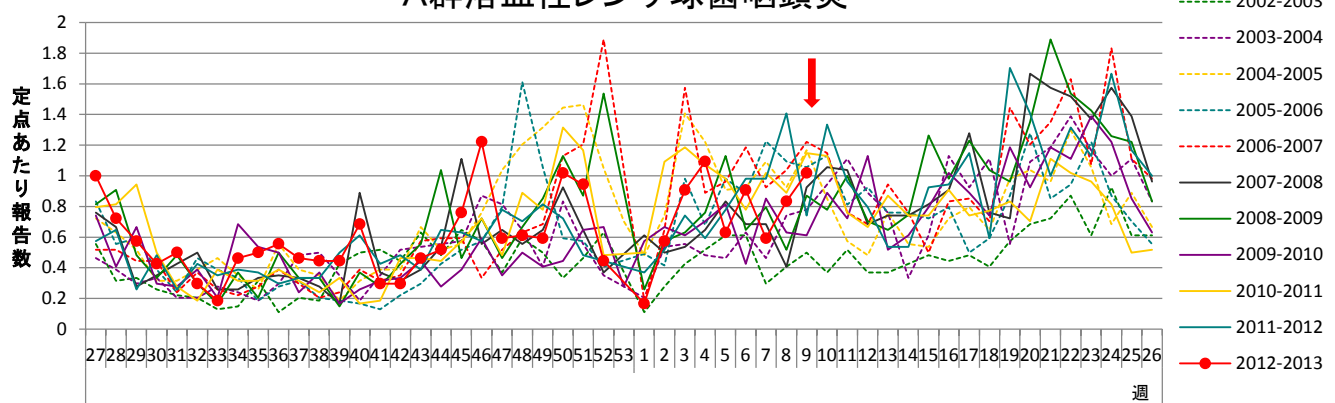
RSウイルス感染症



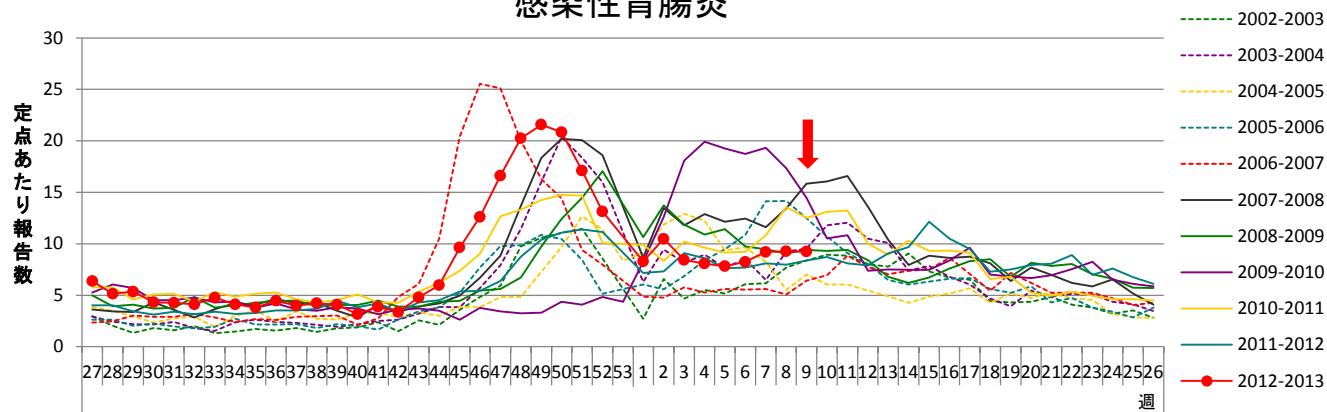
咽頭結膜熱



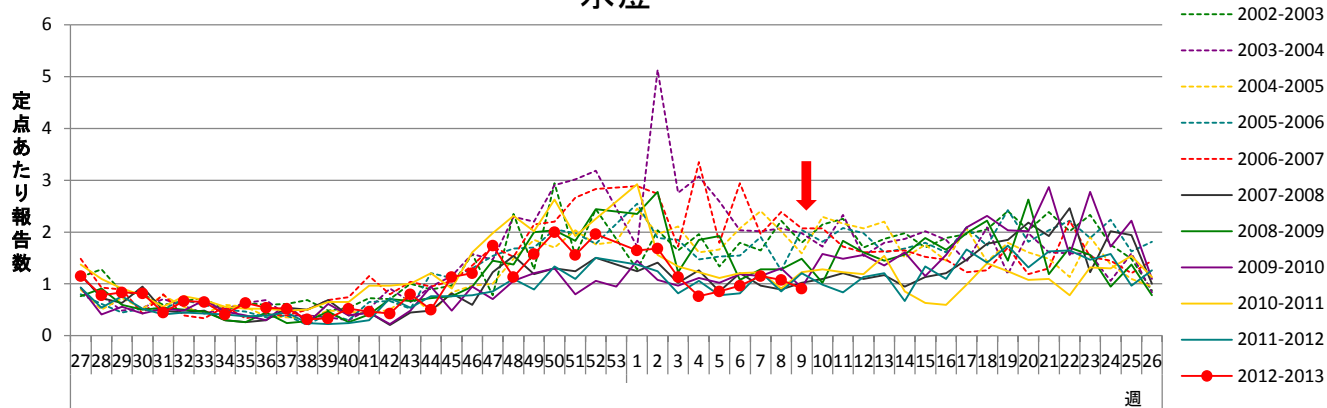
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



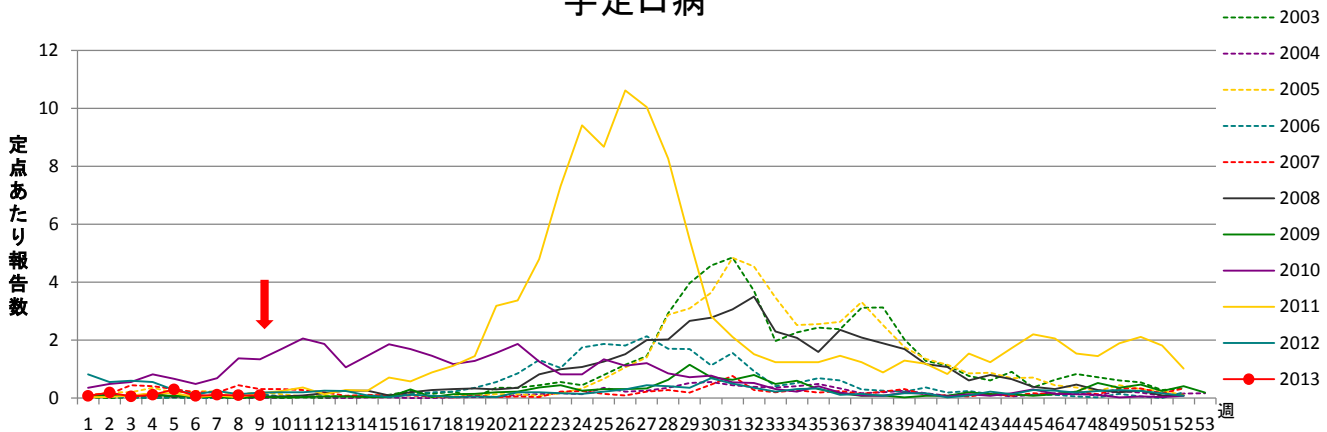
感染性胃腸炎



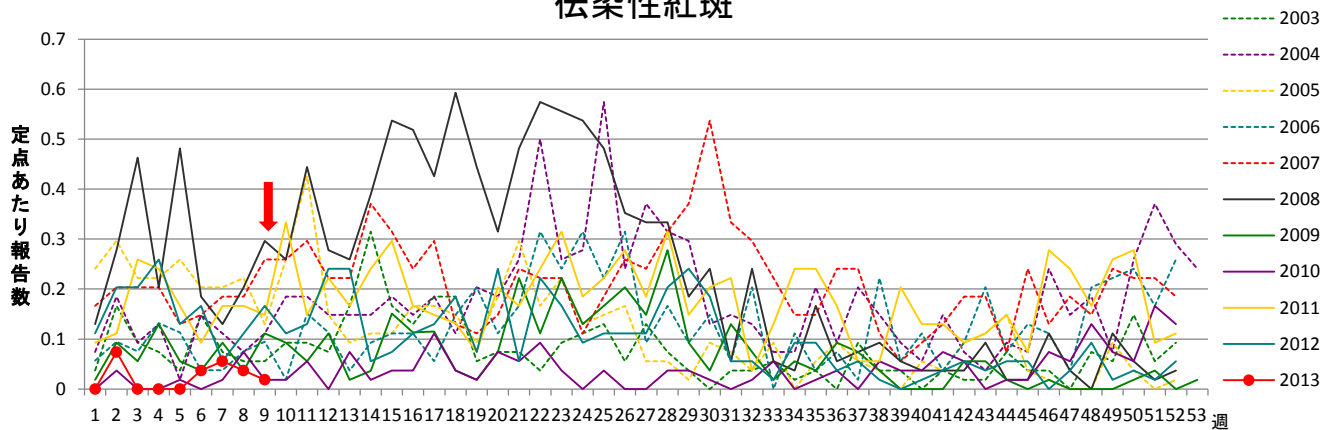
水痘



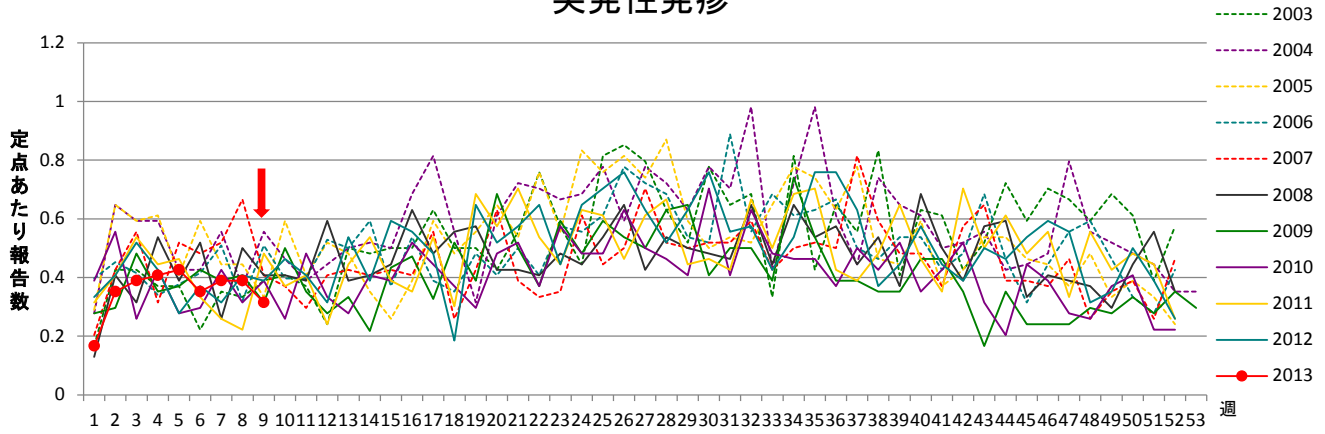
手足口病



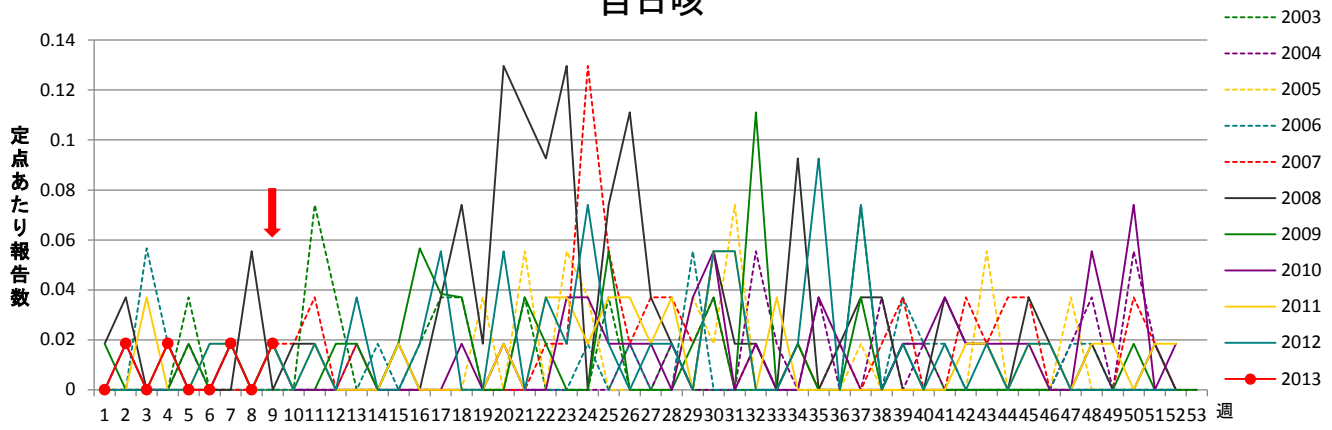
伝染性紅斑



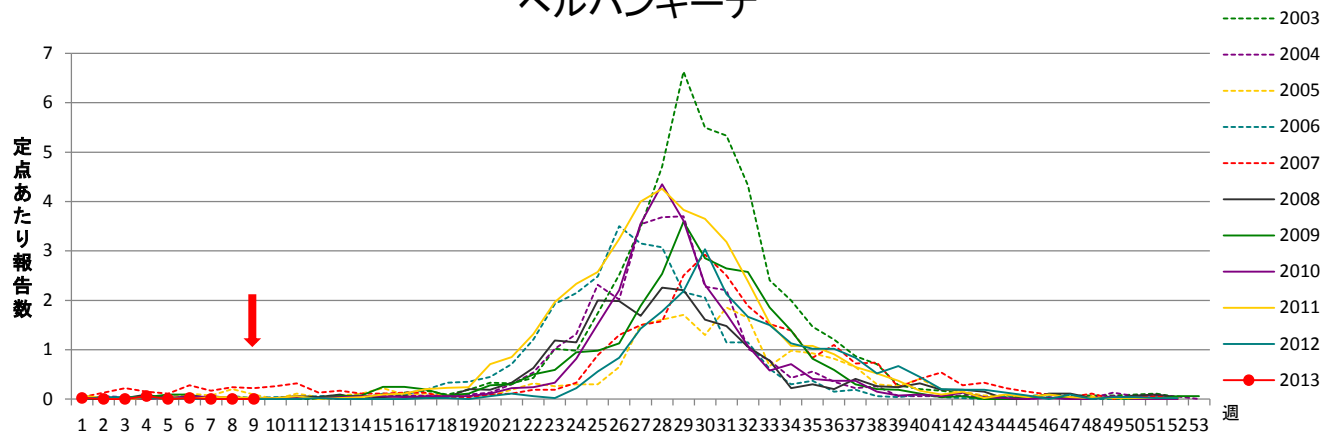
突発性発疹



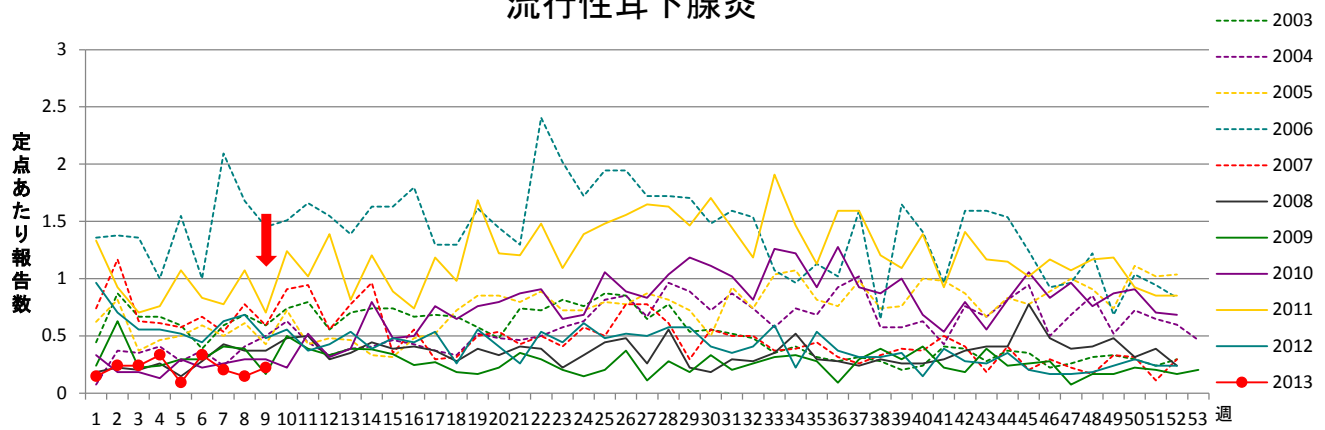
百日咳



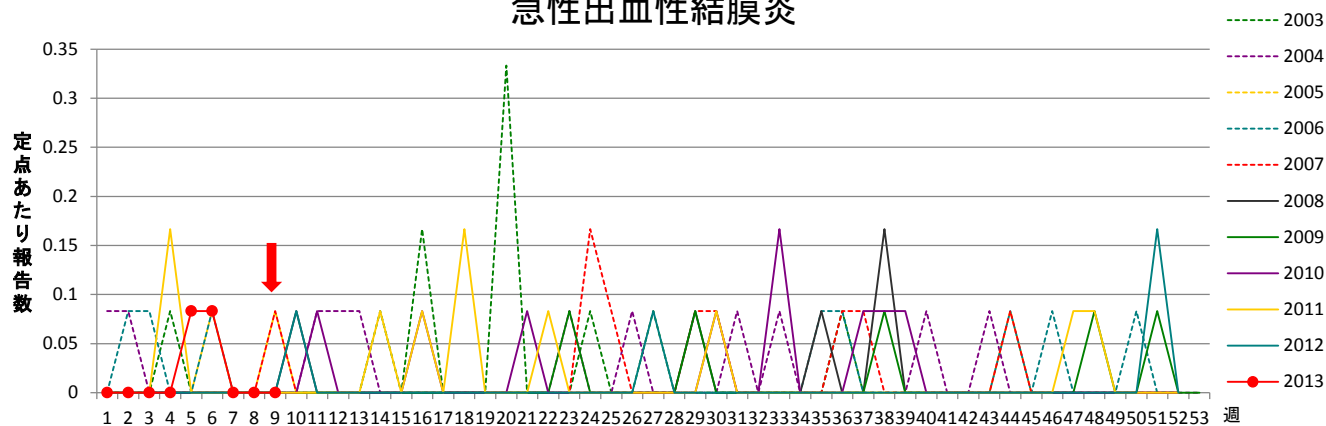
ヘルパンギーナ



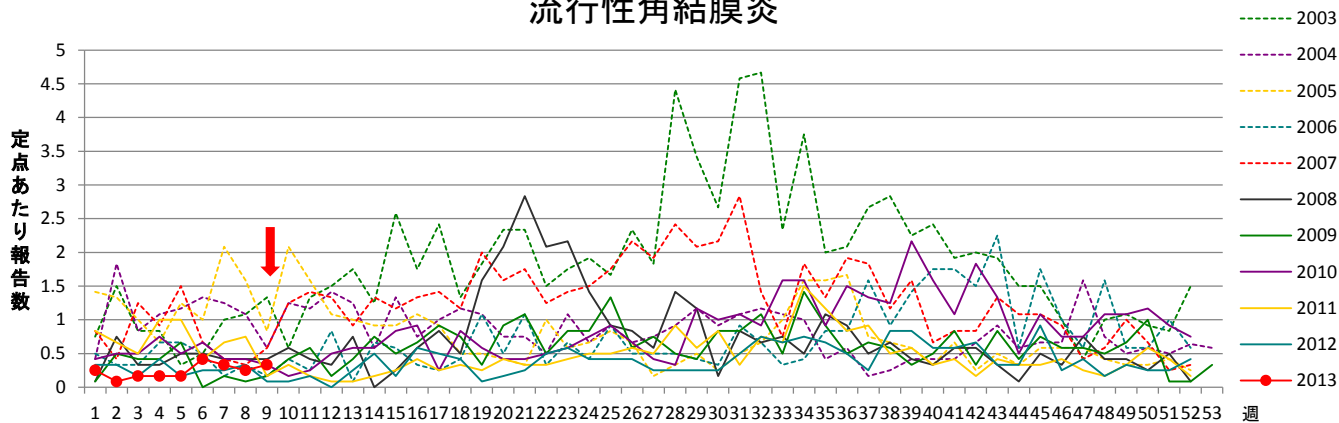
流行性耳下腺炎



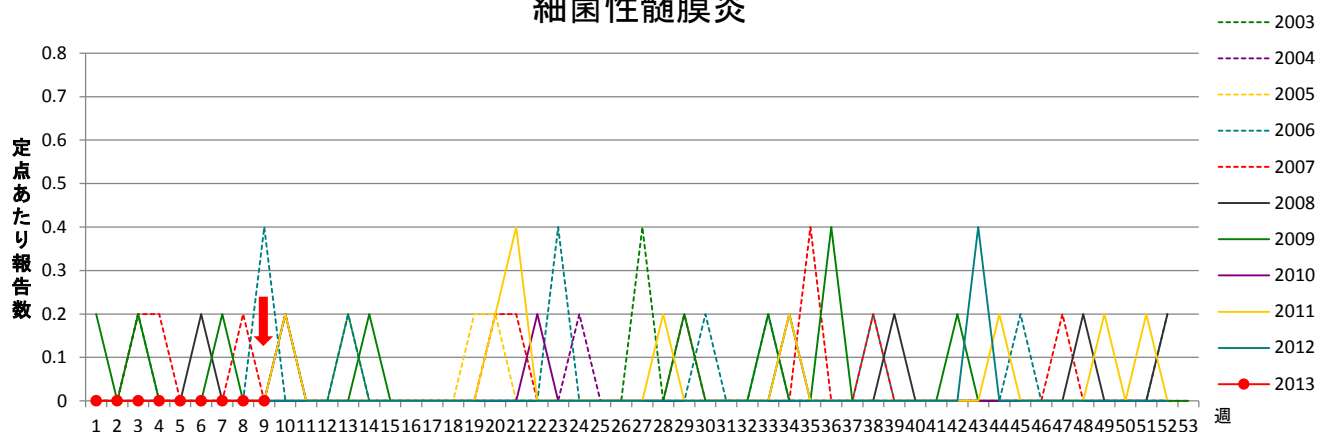
急性出血性結膜炎



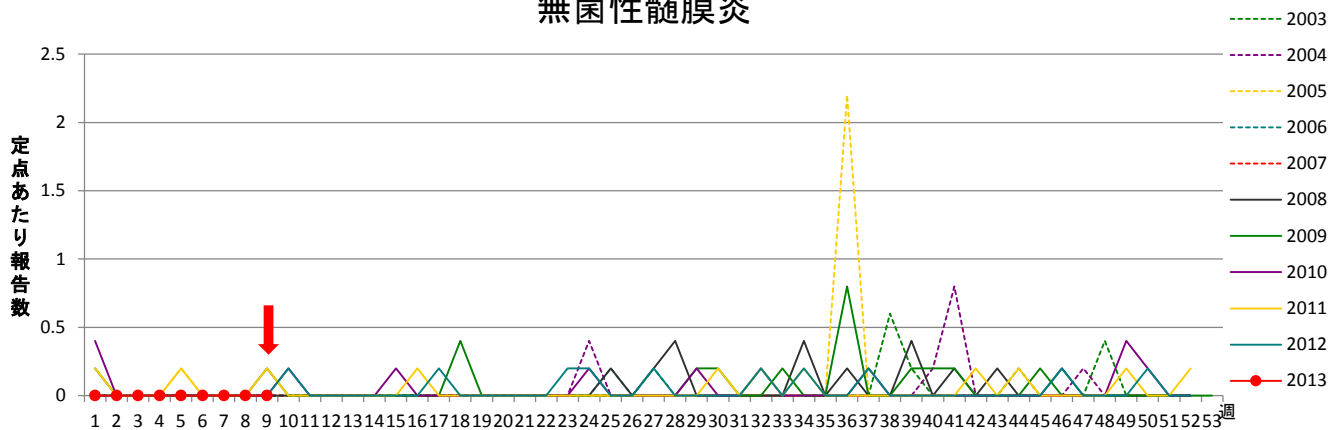
流行性角結膜炎



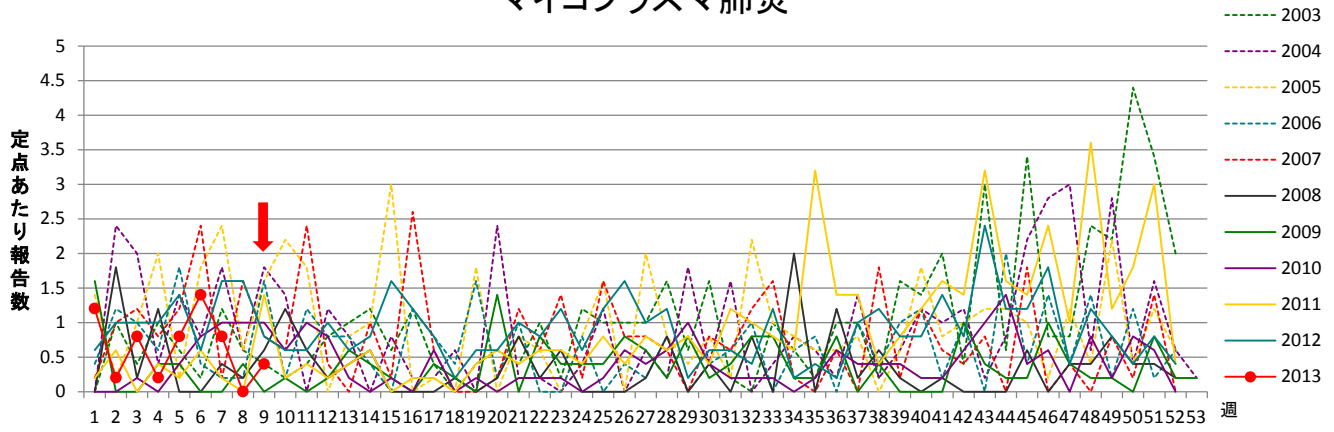
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

